



海外日本語教育レポート

第6回



ミルビス日本センター日本語講師/

モスクワ国立言語大学通訳翻訳学部日本語学科主任講師

カメリナ・タチヤナ

このコーナーでは、海外の日本語教育について広く情報を交換したり、お互いの交流をはかるために、各地域の新しい試みやコース運営などについて、関係者の方々に具体的に紹介していただきます。

ロシアにおける日本センターの日本語講座

—ミルビス日本センターを中心に—

ロシアにおける日本センターの紹介

1991年のソビエト連邦崩壊は、旧ソ連諸国を混乱の渦へと陥れました。この混乱から立ち直る改革の一つが「市場経済への早期移行」であり、それを推進するための支援として日本政府によって日本センター開設が構想されました。そして1994年にその第一号であるミルビス日本センターがモスクワに開設され、その後2001年までにロシア6都市に全部で7つの日本センター（ハバロフスク、ウラジオストク、サハリン、モスクワ/2ヶ所、サンクトペテルブルグ、ニジニーノブゴロド）が開かれました。日本センターの活動



カメリナ講師授業風景：日本人助手とともに

の中心は、市場経済化の過渡期にあるロシア企業で幹部およびその候補を育成しようとする「ロシア企業経営者養成計画」への協力事業（現地でのビジネス講座・訪日研修）、地域のニーズに合わせて各センターが企画・開催する現地企画ビジネス講座、日露のビジネス推進を目的としたビジネスマッチング、訪日研修生同窓会活動の支援、日本語講座などとなっています。

日本語講座はビジネス講座と並ぶ日本センターの看板講座で、年々受講希望者が増え続けています。2003年度は全センター合計で775名が厳しい入学試験に合格し、全37クラスに分かれて授業を受けています。日本センターにおける日本語講座は、「日本語でコミュニケーションできる人材を育てる」ことが目標なので、ロシアの伝統的外国語教授法である文法力と読解力を中心に教科書通りに教える方法とはかなり違っています。会話練習、表現練習、ビデオやカセットを使った聞き取り練習に多くの時間を割り当て、「読み・書き・聞く・話す」の4技能をバランスよく伸ばし、実際に役立つ日本語の習得を目指しています。全センターが、日本センター独自のガイドラインに沿ってカリキュラムを設定していますから、各センター一間の能力差が少なく、転勤や引越などで他都市に移っても、その地の日本センターで学習継続が可能であるというのも、ロシアの他の語学学校にはない特徴の一つです。また日本語だけでなく、日本の音楽、文学、映画、華道、茶道、日本食など日本文化に興味を持つ受講生のニーズに応えるべく、センター主催で生け花教室、折り紙教室、日本の歌を歌う会を行ったり、在外公館主催の日本文化行事や講演会を案内して、日本文化を体験する機会を提供しています。図書館を受講生のために開放し、彼らが日本関係の図書を閲覧できるサービスもあります。

ミルビス日本センター日本語講座の紹介

近年ロシアでは日本への関心が年々高まってきており、ここ3年ほどの驚異的な日本食ブームの影響もあってか、日本文化に興味を持つ人が増えているようです。1990年代前半、モスクワにはたった3軒の日本料理店しかなく、しかもこれらは非常に高かったので利用者は限られたごく一部の人のみでした。それが今ではモスクワの日本料理レストランは100軒以上となり、私達ごく一般の人々が日本食を楽しめるようになってきているのです。そのような状況を反映してか日本への関心も一層高まり、当センター日本語講座受講希望者も増えてきており、また受講生のモチベーションも高くなりました。私達の日本語講座は高等教育機関と違い、言語学者育成が目標ではありません。日本語を通じて日本への理解を深めたりビジネスチャンスを広げたりすることを最重要課題としています。ですから私達は会話力を重視しており、これが当講座の大きな特長といえるでしょう。



上級クラス授業風景

さてミルビス日本センター日本語講座について、少し詳しくご案内しましょう。以下は今年度（2003年度）の数字です。

- ① 講師数：ロシア人講師4名、日本人講師1名、日本人助手2名
- ② 受講生数：計205名（初級Ⅰ-Aクラス26名、初級Ⅰ-Bクラス32名、初級Ⅱ-Cクラス14名、初級Ⅱ-Dクラス25名、中級Ⅰ-Eクラス16名、中級Ⅰ-Fクラス16名、中級Ⅱ-Gクラス20名、中級Ⅱ-Hクラス22名、上級Ⅰ-Mクラス9名、上級Ⅰ-Kクラス13名、上級Ⅱ-Xクラス12名）
／うち学生35%・社会人65%
- ③ 期間：初級Ⅰから上級Ⅱまで6年間／9月開講・6月末修了
- ④ 授業：1週間に2日、1回2時間
- ⑤ 入学試験：毎年8月。初級Ⅰクラスはモスクワ国立言語大学作成の日本語学習能力判定問題（ロシア語文法・聴力・記憶力）を使用。
- ⑥ 受講生規則：原則的に17歳以上40歳未満（入学時）、また他の機関で日本語を学んでいないこと。連絡なしで2週間以上欠席の場合、および年間で出席率が50%以下と判明した場合はその時点で除籍。6月に実施される修了試験不合格者も除籍（継続希望者は8月に再度入学試験を受ける）。留年は6年を通して1回のみ。
- ⑦ 教材および目標レベル

	主教材 しゅきょうざい	副教材 ふきょうざい	目標レベル もくひょう
初級Ⅰ しょきゅう	「みんなの日本語初級Ⅰ」	「毎日の聞き取り50日初級・上」他	日本語能力試験4級合格
初級Ⅱ しょきゅう	「みんなの日本語初級Ⅱ」	「毎日の聞き取り50日初級・下」他	日本語能力試験3級正答率60%
中級Ⅰ ちゅうきゅう	「新日本語の中級」	「文化中級日本語Ⅰ」他	日本語能力試験3級正答率80%
中級Ⅱ ちゅうきゅう	「総合日本語前期」	「ニュースで学ぶ日本語パートⅡ」他	日本語能力試験2級正答率60%
上級Ⅰ じょうきゅう	「文化中級日本語Ⅱ」他	「実力アップ!聴解2級」他	日本語能力試験2級正答率80%
上級Ⅱ じょうきゅう	「上級で学ぶ日本語」	ビデオ教材「スーパーの女」他	日本語能力試験1級正答率60%

会話力を重視している私達の日本語講座では、週に1回日本人助手との会話を授業の最初に取り入れています。テキストの例文にはない生きた日本語を聞くチャンスが与えられていることは大きなメリットだと考えています。そして毎年春に行われる「ミルビス日本センター・スピーチコンテスト」では中級I以上の受講生がクラス予選（全員参加）と全学年本選（予選通過者のみ）で自身の主張を日本語で披露してくれます。そのために冬のうちから受講生・講師・助手が丸となって準備に入ります。また6年間一貫教育システムですので講師・助手と受講生そして受講生同士の間で心が通い合い、みんなで励ましあいながら頑張っています。そうした結果として受講生達の心の絆が固くなり、日本語を使うアルバイトを共有しあったり、日本関係の文化フェスティバルと一緒に出かけたりしています。

日本人助手との会話実践練習
にほんじんじょしゅ かいわ じっせんれんしゅう

卒業試験の前には皆緊張して、必死に準備をします。卒業試験といえば、課外試験「日本人留学生をトレチャコフ美術館に案内する」は好評で、その時に会った日本人とその後も交流を暖めていくケースもあります。入学後、最終的に揃って卒業できるのは60%程度です。そして卒業生達は日本語講座同窓会に入りますが、全センターの中で日本語講座の同窓会があるのはミルビス日本センターのみです。同窓会は活発に活動しており、3ヶ月に1度はセミナーが開かれたりして、日本への関心が失われることはありません。このように受講生は卒業後も同窓生として一堂に集まり、日本に関するテーマで議論したりしているのです。これら同窓会主催セミナーへは現役の日本語講座受講生が授業の一環として聴講することもあります。日本語や日本文化、つまり日本への愛情が同窓生をいつまでも結びつけているようで、私はとても嬉しく感じています。

受講生には日系企業や日本との貿易などに携わっているロシア企業から勉強しにきている人もいます。当講座で2年間日本語を学んだことが評価されこの夏から東京で働いているカーチャさん（三菱自動車）、日本人の上司や同僚と話がしたくて熱心に授業に通うのはアレクサンドルさん（オリンパス）。ジーマ君は6年間の講座を優秀な成績で卒業し、今は日本の通信社（共同通信）で活躍中です。日本料理レストランのマネージャーであるアンドレイさんは覚えてばかりの日本語を活かして、早速魚の買い付けに成功したそうです。華道や剣道などの師範であったり、配偶者が日本人だったり、日本語を使う仕事をするために語学を身につけようとしていたり…。受講生は様々ですが、皆とても熱心に学習しています。彼らの努力・実力が評判となり、最近では在モスクワの日系企業が当日本語講座卒業生および受講生に対して高い関心を示し、求人も急増しています。彼らが日本とロシアの架け橋になるような仕事に就くのを見ることは私の喜びでもあります。

書道体験
しょどうたいけん

モスクワにお越しの際はぜひミルビス日本センター日本語講座に立ち寄り、雰囲気の良い講座をのぞいて下さい。お待ちしております。

ミルビス日本センターURL : <http://www.jcenter-mirbis.co.ru>